

## ソラーレ／ソラーレPの臨床応用

静岡県浜松市 くまがい歯科クリニック  
熊谷真一

### はじめに

コンポジットレジンによる修復治療は、ボンディングシステムおよびコンポジットレジンの進化によってここ数年で飛躍的に向上し、適応範囲もかなり広がってきた。またカリオロジー、MIも臨床に普及してきており、コンポジットレジンの臨床における重要度は今後ますます高まると予想される。

そのような中で、自然感あふれるシェード、天然歯との美しいハーモニーをキャッチフレーズに、MFRハイブリッド型コンポジットレジン、ソラーレ／ソラーレPが発売

された。審美的な特徴としては、天然のエナメル質に近いオパール性、適度な透明感による色調再現性、広い範囲での色調適合性、光重合前後の色調変化の減少、CV、CVD、AO3などの微妙な色調に対するバリエーションがあげられる。実際、選択したシェードが簡単にマッチングし、大きくずれることがない。また多彩なシェードバリエーションの中から、あるいはユニフィルフロー・ユニフィルローフローを併用した積層充填法により、自然な色調、形態を容易に

再現することができる。さらに、頭を悩ませていた研磨に関しても、滑沢な研磨面を短時間で簡単に得ることができる。

機械的強度に関しても、データから判断すると、従来のコンポジットレジンよりも良好かつ十分な性能(特に粘靱性)を持つようである。ソラーレ／ソラーレPは、審美性とMIをより高いレベルで実現できる材料となったのではなかろうか。



### 症例1



1 | 1 | 隣接面に小さなカリエスを確認。



1 | 2 | 必要最小限の範囲でカリエスを除去。



1 | 3 | ソラーレA2を充填。ベベルが少なくても色調が合いやすい。

### 症例2



2 | 1 | 3 | 歯頸部から近心にかけてのカリエス、2 | 近心に深いカリエス、1 | 遠心にコンポジットレジンの2次カリエスが存在した。



2 | 2 | カリエス除去時。最近ではダイアグノデントでう蝕象牙質の除去量を確認することが多くなった。



2 | 3 | 3 | にはCVD、2 | にはソラーレA3とA2を積層充填、1 | にはA2を充填。CV、CVDは歯頸部の充填には欠かせない色調となっている。

### 症例3



3  
・  
1 正中離開、審美障害を主訴に来院。



3  
・  
2 歯周初期治療後の状態。ラミネートベニアかクラウンによる修復も考えたが、もう一度コンポジットレジン充填をやり直すこととした。



3  
・  
3 コンポジットレジン及びカリエスを除去。



3  
・  
4 深部にはユニフィルフロー-AO3を使用。その他はソラーレA3とA2を積層充填した。ペーストの操作性も良く、広範囲の充填に対してもストレスは少ない。

### 症例4



4  
・  
1 1]に変色があり、漂白を行うこととなった。



4  
・  
2 漂白後の状態。隣接面に充填されていたコンポジットレジンの色調が気になるようになった。



4  
・  
3 充填されていた隣接面のコンポジットレジン除去。



4  
・  
4 ソラーレA1を選択して充填した。ソラーレにはホワイトニング後の歯牙に最適なBW (Bleaching White) も用意されている。

### 症例5



5  
・  
1 80歳女性、2]に深い歯頸部からのカリエスが存在した(写真はカリエス除去時)。80歳といえども審美性に対する関心は高い。



5  
・  
2 深部、変色の強い部分にはユニフィルフロー-AO3を充填。



5  
・  
3 マトリックス(ストリップ)をそのまま圧接するとストレートなカントウアになってしまいうので、マトリックスを軽く火炎にさらし、適切なカントウアを付与する。



5  
・  
4 歯根部にはソラーレCVDを使用。歯冠部にはまずA3を充填し、切端部に向かってA2を積層充填。さらにユニフィルフロー-A2を用いて縞模様を付与した。



5  
・  
5

研磨後の状態。研磨も容易で、比較的簡単に自然観が再現できたと思う。(GCサークル105号 佐藤秀夫先生の症例を参考にさせていただいた。)

### 症例6



6  
・  
1

1) 前装鑄造冠の挺出と正中離開を主訴に来院。



6  
・  
2

歯周初期治療後も正中離開が改善しないため、チェアーサイドにてテンポラリークラウンを作製し、歯冠形態による解決を試みたが、これは無理があった。



6  
・  
3

1)のテンポラリークラウンと1)のコンポジットレジン充填により正中離開の改善を図るため、模型上で確認。



6  
・  
4

決定した1)の形態を口腔内で再現するために、充填用のシェルを作製。



6  
・  
5

エナメルエッチング、ボンディング後、ソラーレA1、A2をシェル側の必要な部分に填入。気泡が入らないよう注意して歯に圧接しながら重合。



6  
・  
6

研磨終了時の状態。



6  
・  
7

1)テンポラリークラウンを装着。模型上での準備により、短いチェアータイムで目標とした充填が可能となる。

### 症例7



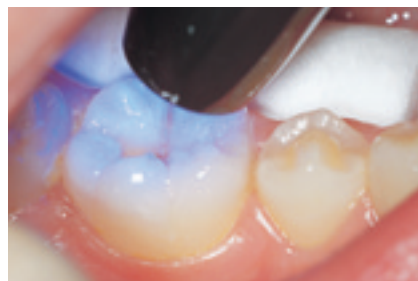
7  
・  
1

6)咬合面のカリエス。ダイヤグノメントでの測定値は99を示した。



7  
・  
2

カリエス除去時の状態。



7  
・  
3

入り口が狭く、中に向かって窩洞が広がっているため、まずはユニフィルフローA3を充填。



7  
・  
4

ソラーレP A2を充填した。ソラーレよりもやや硬めのペーストで、充填時の操作性も良好であった。



症例8



8  
・  
1

65 隣接面のカリエス。



8  
・  
2

カリエスを除去したところ、コンタクトは保存できた。



8  
・  
3

イーザーマトリックスを使用し、ソラーレP A2を充填。安価でも、簡単で便利なマトリックスもあるので、いろいろ試しながら症例に応じて使用している。



8  
・  
4

充填後の状態。

症例9



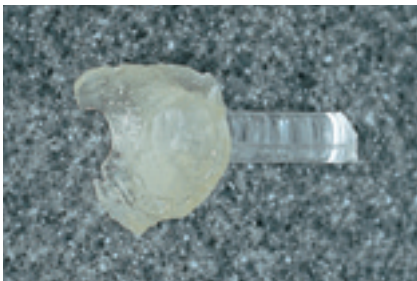
9  
・  
1

18歳女性、6 隣接面の2次カリエス。



9  
・  
2

機能咬頭の残存歯質は少なかったが、X線上で隣接面カリエスもなく、審美性も考慮してコンポジットレジン充填を選択した。



9  
・  
3

インレー除去前に、ブランクキャストバーをハンドルとして、透明レジジンにて圧接用のシェルを口腔内で作製。



9  
・  
4

インレーをはずした状態。予想以上に変色が強い。



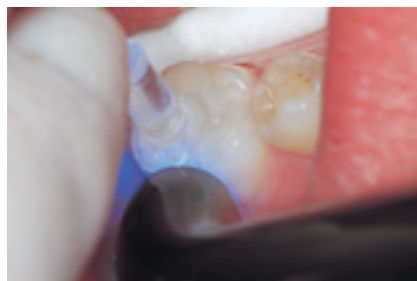
9  
・  
5

ダイアグノドントも用いながら、可及的に感染象牙質の除去を行った。



9  
・  
6

着色部が残るため、ユニフィルフローローAO3を窩底部に充填。



9  
・  
7

シェルを圧接しながらソラーレA2を充填。



9  
・  
8

充填、研磨後の状態。圧接によりギャップは生じにくく考えられ、また形態修正も容易になる。ただしシェルにより色調を合わせにくい。